



社会福祉法人

いのちの電話 東京

2023年度 事業報告



はじめに

皆さま、お変わりございませんか。1年の活動のご報告と共に、感謝の思いを込めてご挨拶をさせて頂く時期となりました。

東日本大震災の復興も未だ途上にある中で、年明け早々に、能登地方で大規模な震災が起きました。被災された方々や関係者の皆様にとっては、厳しい状況の中でお過ごしのことと思います。当たり前の生活環境が突然一変する体験は、日々の生活環境の回復への対応と共に、悲しみや虚しさ、怒りや絶望感などを心の奥深いところで味わっていらっしゃるかと拝察します。また、紛争や戦争状態、気候変動による大規模な自然災害も、世界各地で同時に起きています。このような折に、「暗夜に一灯を捧げる。暗夜を憂う勿れ、一灯をこそ頼め」との古人の言葉が浮かんでまいります。他者のご苦勞を自分のこととしながら、日々の生活で、自分たちのできることに誠実に取り組むことも大切との、知恵だと思えます。

今年度の活動で最初にご報告したいことは、相談員として電話に出る仲間が20数名加わったことです。コロナ感染の広がりですら不要不急の外出の抑制を求められている中、いのちの電話の活動の趣旨に賛同し、1年半に及ぶ不自由な環境での研修を終えた方々です。後続の詳細なご報告でも触れますが、相談員の数と受信件数は相関があります。毎年活動を終える仲間・休まれる仲間もいますが、一人で悩み苦しむ方々に共に生きましようとのメッセージを伝える私たちの意向に応える新たな仲間も続いていることは心強いものがあります。

50周年の“将来への展望”を踏まえて、いのちの電話の今後の活動を担う方々に、どのような活動環境や活動の方向性を提示するかが、これまでの活動を担ってきた者にとって大切な務めとなります。後掲の今年度の各委員会報告や活動報告をご覧になって、設立時の活動意向と活動の歩みに沿っているか、またこれらに基づき時宜に応じた事業展開・実施となっているかを吟味していただき、ご意見などを賜れば嬉しく思います。他者の存在の有難さを実感し、意向を共にする仲間の心の豊かさを育むものになっていればと思います。

朝のウォーキングでみかけた「謙虚に、驕らず、自信をもって今日も1日がんばろう。」との工事現場での看板を見て、「よき出会い」となるべく活動を続けている私たちにも通じていると思いました。また新たな1年がスタートいたします。前年度に引き続き、皆様の温かなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話
理事長 末松 渉



社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代に生きるものが互いによき隣人となって、ひとりひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に、次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一. 「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかであって、助け・慰め・励ましを求めている一人一人に向けて開かれています。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心を持ち、親身になって対応することを基本とします。
- 一. 「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一. 「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一. 「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日 24 時間体制で相談を受付けます。
- 一. 「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一. 「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2023 年度社会福祉法人いのちの電話概況

2024 年 3 月現在

設 立	1971 年 10 月 1 日開局	相 談 時 間	24 時間（年中無休）
法 人 認 可	1973 年 12 月 24 日	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談 医療相談 フリーダイヤル （毎月 10 日・毎日 フリーダイヤル）
組 織	理事 11 名・監事 2 名・評議員 13 名	相 談 員 養 成	年 1 回公募
相談員実働数	237 名	相 談 員 研 修	継続研修 全体研修会等
認定者累計	1,918 名	運 営 費	年間経費：約 4,000 万円
受 信 件 数	19,307 件（2023 年 1 月～ 12 月） 男 8,490 件 女 10,727 件 その他 90 件	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」
総受信件数	開局以来累計 1,422,722 件	関 連 団 体	一般社団法人日本いのちの電話連盟 日本自殺予防学会

2023 年度 活動内容

Ⅰ 実施した研修

1. 養成研修 (18 ヶ月)

- 56 期生 (2 年目) 第Ⅲ期 30 名、インターン期 27 名 ● 57 期生 (1 年目) 第Ⅰ期 27 名、第Ⅱ期 27 名

2. 継続研修

‘23 年 4 月～‘24 年 3 月 (8 月は除く)

3. 全体研修 於研修室 300 A 及び ZOOM

- 「自死生還当事者からのメッセージ」7 月 21 日 (金) 講師：豆塚エリ氏 (詩人・エッセイスト) 参加者：79 名 (川崎センター参加)
- 「フードバンクの活動・セーフティネットについて」9 月 27 日 (水) 講師：芝田雄司氏 (認定 NPO 法人 セカンドハーベスト・ジャパン) 参加者：24 名
- 「LGBTQ について」11 月 11 日 (土) 講師：安間優希氏 (NPO 法人 PROUD LIFE 代表理事・精神保健福祉士) 安間梓氏 (同法人相談支援部会責任者) 参加者：37 名
- 「薬物依存症リハビリセンター：埼玉ダルクの活動について」2 月 17 日 (土) 講師：辻本俊之氏 (NPO 法人 埼玉ダルク施設長) 参加者：23 名

4. スキルアップをはかるための個人スーパービジョン

- 講師：飯島睦子氏 (元研修委員長) 岩田淳子氏 (成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見敏郎氏 (立教大学教授・臨床心理士) 参加者：17 名

6. インターネット相談研修

- インターネット相談員養成研修

‘23 年 10 月～12 月 講義と OJT 参加者 8 名 (東京 4 名・他センター 4 名)

- インターネット相談員継続研修 ‘23 年 6/16「返信文を書く」(17 名)、9/1「シェアリング実習②」(14 名)

- インターネット相談コーディネーター・フォローアップ研修 ‘23 年 8/8(6 名)、『24 年 2/2(7 名)

Ⅱ 活動

1. 役員会

- 理事会 第 33 回～第 37 回 (5 回) ‘23 年 5/15、6/8、7/14、11/8、‘24 年 3/18
- 評議員会 第 17 回～第 18 回 (2 回) ‘23 年 6/8、‘24 年 4/4

2. 運営協議会

- 委員会の開催 第 135 回～第 137 回 (3 回) ‘23 年 5/13、9/9 ‘24 年 1/13

3. ボランティア委員会

- 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催 (4 回) ‘23 年 5/13、7/8、9/9、‘24 年 1/13
内容は、相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
- 全体会 (毎年 3 月) の企画・実施 3/9

4. 広報委員会

- 年 2 回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行 (‘23 年度は 169 号・170 号)

5. 財務委員会 (3 回)

- 財務 (予算・決算・その他) ●委員会の開催 ‘23 年 4/26 (決算案)、10/26 (中間決算等)、『24 年 2/28 (予算案)

6. インターネット相談委員会

- 委員会の開催 (5 回) ‘23 年 6/24、9/16、12/16、‘24 年 1/20、3/30
- コーディネーター会の開催 (7 回) ‘23 年 4/21、5/5、6/2、10/6、12/1、‘24 年 1/12、3/1

7. 研修委員会

- 委員会の開催 (5 回) ‘23 年 5/16、7/4、9/26、‘24 年 1/12、2/16
- リーダー会： 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施
‘23 年 5/29、7/29、9/30、11/29 合宿 ‘24 年 1/27、28、3/29
- 地域連携プログラム：‘23 年 10/26(杉並保健所 46 名)11/5(奥多摩保健所 32 名)11/21(世田谷保護司会 44 名)12/8 ‘24 年 1/26(台北経済文化代表処 33 名)2/19(中央区生涯学習 7 名)3/12(中央区保健所 35 名)
‘23 年 8/28、30、‘24 年 3/7 (池袋保健所 計 43 名) 計 240 人

いのちの電話の「地域連携プログラム」

目的

いのちの電話は、孤立・孤独や精神的危機に直面している人たちに対しての「心のサポート」を、相談員の養成研修等で長年培ってきた研修方法の蓄積があります。この研修方法を活かした、実践的・体験的講座を提供することにより、地域と連携し、地域の対話的対人関係力の向上に寄与すること、またいのちの電話への理解と相談員の拡充等につながることを目的とした地域連携プログラムを実施しています。

経緯

2018年に地域連携プロジェクトが始まりました。そして同年都内大学社会福祉学部で傾聴的対話ワークの授業を実施しました。その後、いのちの電話HPに地域連携プログラムの案内を掲出したところ複数の都内保健所等から応募があり、各地域のニーズに沿ったプログラムを考え実施してまいりました。また、医療系の相談機関から、相談者の「死にたい」との訴えへの対応に苦慮しておられる状況を伺い情報共有も行いました。

講座内容

地域連携プログラム（以下、講座）は、臨床心理学や精神医学を専門とする大学教授や精神科医と協働しながら理論的講義と体験学習（参加者を少人数にわけておこなうグループワーク）の2部構成を基本としています。このように本講座は、参加者の実践的・体験的学びを主眼としています。講座のポイントは次の3点です。①対話による気持ちの関わりを体験的に学ぶ機会を提供し、そこで生まれる相互信頼関係を体験する。②相互信頼関係の体験をとおし“お互い様”の感覚を体験的に理解し、家族・職場・ご近所等での人間関係を見直す一助とする。③困っている人や危機に直面している人などに対し、「聴く」ことで支援する可能性や方法について理解を深める機会を提供する。

反響

実施後のアンケートには「自分を守りながら相手を気にかけることが大切で、ひとりで抱えないことが大切と実感した。」「正解がないので難しいことがよくわかった。」などの感想をいただいております。総じて普段は意識しない対話について、ワークをとおしてその難しさと重要さに気づいたこと、自分の周囲の人との関係性を見直し、関わっていきたいということが見受けられました。また、私たち講座の担当者にとっても実施希望団体にはその地域や組織の実情による多様なニーズがあることを実感する機会ともなっています。

今後

2018年から6年間の講座参加者は延べ784名を数えます。この講座がきっかけとなって、いのちの電話の活動への理解や、相談員への関心の喚起につながっていると感じています。また、手探りで始めた活動ですが、地域社会で講座を開催することを通じて、より良い市民社会づくりに貢献したいと考えております。

本講座は、「ゲートキーパー入門講座」や「対話による気持ちの関わりを体験的に学ぶ講座」等、実践的・体験的講座を企画して実施いたします。講座に関してのお問い合わせは、いのちの電話事務局までご連絡ください。

TEL：03-3263-5794 HP：<https://www.indt.jp/events.php>



Ⅲ その他

1. 相談員（58期生）の募集

- '24年4/30まで募集
- 応募者 35名

2. 感謝式・全体会（3/9（土））

- 永年勤続感謝：50年1名、40年1名、30年3名、20年3名、10年11名

3. 厚生労働省事業への参加協力（'23年1月～12月）

- 「自殺予防フリーダイヤル」に参加
- ・ 毎月10日 朝8：00～翌朝8：00
- ・ 毎日フリーダイヤル（16:00～21:00）

※専用電話2本 参加者：延べ人数47名 受信件数：282件

4. その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情50件（'23年1～12月）

2023 年度 相談の実態とその傾向

● 電話相談の統計から

2023 年（1 月～12 月）の電話相談受信件数は 19,307 件（前年比＋11.1％）であった。新型コロナウイルス感染症の急激な拡大前の 2019 年実績（21,440 件）に届かなかったのは残念であるが、着実に回復しつつあると感じている。多くの方にご応募いただいているが、相談員の高齢化から、定年を含め辞任する相談員も多く、相談員の増加につながらないことも、受信件数が伸び悩んでいる要因と考えている。男女比では、女性からの相談が多い傾向に変化は見られなかった（男性 8,490、女性 10,727、その他 90）。相談を利用した年代は 50 代が最も多く、次に 40 代、60 代と高年齢層の増加傾向が続いている。相談の内容では、何らかの生きづらさを抱えてきた人たちが、一層追い詰められていたり、孤独・孤立・精神的病・就労困難・老親の介護（8050 問題）など、一人で複数の問題を抱えて、生きづらさを訴える相談が多く寄せられた。自殺志向は若年層（10 代～30 代）が、高年齢層に比して高い傾向が続いている。志向率は、年間を通しては前年と変わらない数字となった。

※平均通話時間：29.5 分（男性 24.4 分、女性 33.6 分、その他 22.0 分）

表 1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	その他	2023 年 合計	2022 年 合計
10 代	166	54	1	221	200
20 代	397	347	8	752	797
30 代	1,170	987	26	2,183	2,089
40 代	1,780	2,163	9	3,952	3,894
50 代	2,295	3,012	6	5,313	4,470
60 代	1,472	2,200	5	3,677	3,149
70 代	359	1,236	3	1,598	1,595
80 代以上	66	137	1	204	
不明	785	591	31	1,407	1,190
合計	8,490	10,727	90	19,307	17,384

図 1

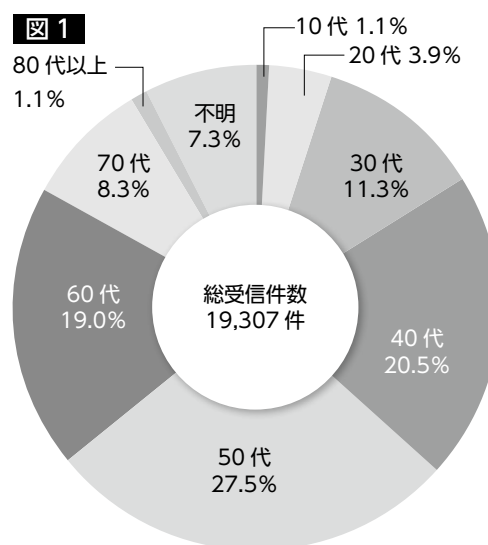


表 2 電話相談 内容別件数

	男性	女性	その他	2023 年 合計	2022 年 合計
人生	2,709	3,029	24	5,762	5,634
思想・人権	79	55	3	137	108
職業	458	442	1	901	850
経済	248	307	3	558	455
家族 (含親族)	508	1,629	3	2,140	1,825
夫婦	173	639	0	812	678
教育	27	31	1	59	33
対人	603	1,565	4	2,172	1,891
男女	220	296	4	520	500
身体	355	733	10	1,098	881
精神	1,736	1,629	8	3,373	2,946
情報	73	100	0	173	152
その他	1,301	272	29	1,602	1,431
合計	8,490	10,727	90	19,307	17,384

図 2

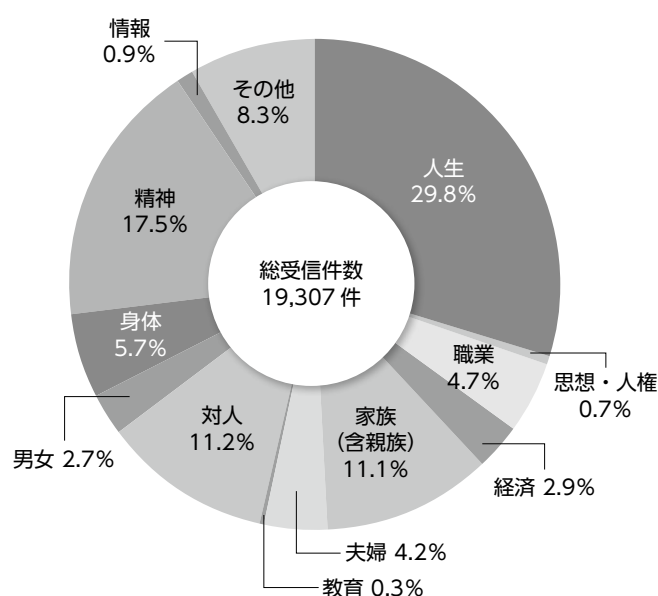
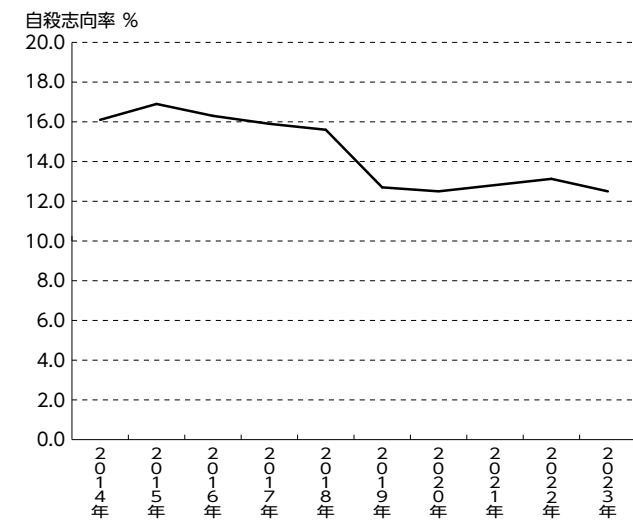
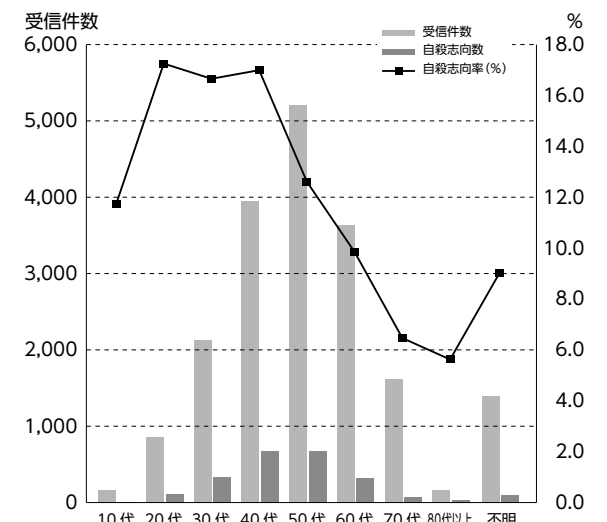


図3 電話相談 10年間の自殺志向率



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
受信件数	28,164	27,161	25,443	24,135	22,194	21,440	16,626	15,594	17,384	19,307
自殺志向率(%)	16.1	16.9	16.3	15.9	15.6	12.7	12.5	12.8	13.6	12.5

図4 電話相談 年代別受信件数と自殺志向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
受信件数	221	752	2,183	3,952	5,313	3,677	1,598	204	1,407
自殺志向数	26	128	354	656	665	335	111	12	128
自殺志向率(%)	11.8	17.0	16.2	16.6	12.5	9.1	6.9	5.9	9.1

土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟、その他の医師により毎週土曜日 14 時～ 17 時に行われている。

2023 年の相談件数は 243 件 (男性 114 名、女性 127 名、不明・その他 2 名) (男性約 46.9%、女性約 52.3%、不明・その他約 0.008%)。月毎の平均通話数は約 20 件である。

コロナの影響があったのか、2021 年までは相談件数は増加傾向にあったが、2022 年より減少に転じ、2023 年はさらに大きく減少している。相談を休止した日があったことが影響しているかもしれないが、今まで電話をかけてきた層が別の相談窓口 (医療機関など) につながっている可能性もある。医療情報がネットなどで容易に得られることが影響してか、若年者からの相談件数は極めて少ない。

科目別では、精神科関連が多く、治療中の方からのものが多い。全体に、治療を受けているが不安を感じており、主治医とうまく話せていない、という印象の方が多い。繰り返しかけてくる方も多く、疾患・医療そのものの他に、医師や家族との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談やただ話したいという方も多い。

希死念慮のある方は少ないが、持病があることで急な変化を起こす可能性も高く、丁寧に対応することが求められている。

【科目別相談件数】 2023 年 1 月～ 12 月 (複数回答あり)

	男性	女性	不明・その他	合計
精神科 (心療内科)	68	70	1	139
内科	37	30	0	67
外科 (整形外科)	13	23	1	37
婦人科・産婦人科	0	1	0	1
泌尿器科	6	2	0	8
皮膚科	1	3	0	4
耳鼻科	1	4	0	5
歯科	0	0	0	0
眼科	0	6	0	6
小児科	0	0	0	0
性について	1	1	0	2
エイズ	0	0	0	0
健康相談	0	1	0	1
美容形成	0	0	0	0
その他	5	11	0	16
合計	132	152	2	286

【月別相談件数】 2023 年 1 月～ 12 月

	男性	女性	不明・その他	合計
1 月	9	5	0	14
2 月	9	15	0	24
3 月	11	13	0	24
4 月	10	12	0	22
5 月	10	8	0	18
6 月	10	8	0	18
7 月	13	13	0	26
8 月	11	9	0	20
9 月	10	11	0	21
10 月	5	14	1	20
11 月	12	12	1	25
12 月	4	7	0	11
合計	114	127	2	243
2022 年				302
2021 年				328

フリーダイヤル

全国のセンターが参加してフリーダイヤルで電話を受けている。

2023 年度の受信件数は、前年比 9.9% 減となった。自殺傾向が高いことが特徴である。

	男	女	不明	計
相談件数	130	152	0	282
自殺志向数	24	33	0	57
自殺志向率	18.4%	24.6%	0.0%	20.2%
平均通話時間 (分)	19	20	0	20

担当延べ人数 47 人 2023 年 1 月～ 12 月 FD 実績 (毎日フリーダイヤル含む)

インターネット相談

「いのちの電話みんなのインターネット相談」は、東京、埼玉、川崎、奈良センターの協同運営により実施し、2023年(1月-12月)の相談返信件数は1,659件(うち東京センター638件)、自殺志向率は36.5%となっている。性別(男性498件、女性992件、非開示169件)では女性からの相談が多く、年代別では若年層(10代以下-30代)からの相談が全体の約5割であるが、50代、60代からの相談も増加している。相談内容では、人生(43.9%)、保健・医療(17.3%)、家族(11.3%)の相談が増加傾向にある。

また、「日本いのちの電話連盟インターネット相談」は、引き続き盛岡、仙台、秋田、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡、熊本センターにより実施し、相談返信件数は979件(うち東京センター14件)、自殺志向率は36.9%、性別は男性372件、女性575件、非開示32件となっている。

図5 インターネット相談 年代別

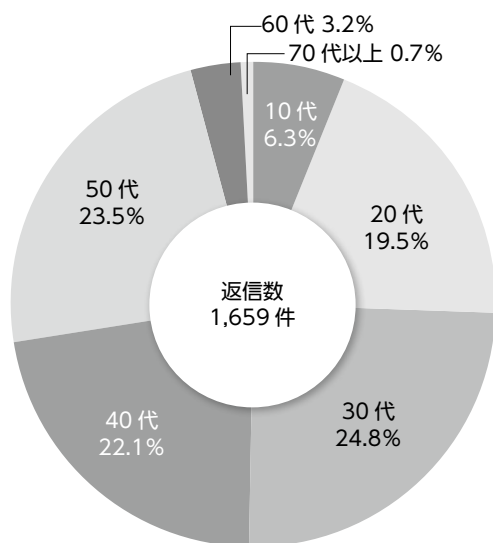
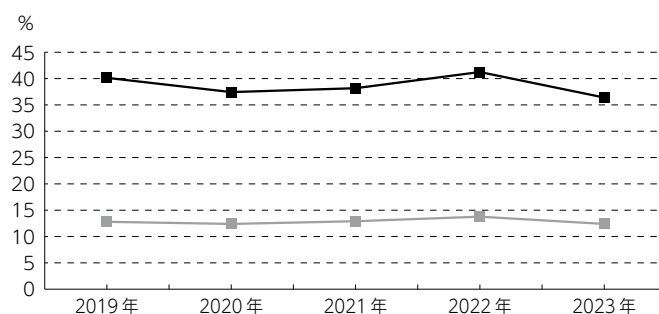


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺志向比較



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
電話相談%	12.7	12.5	12.8	13.6	12.5
ネット相談%	39.6	36.9	37.9	41.6	36.5

図6 インターネット相談 内容別

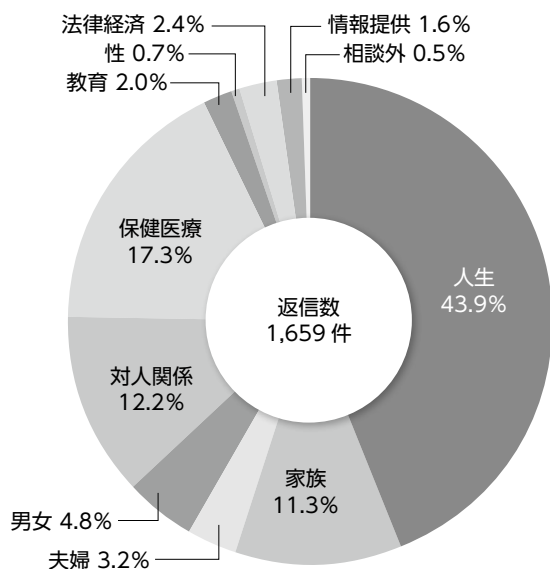
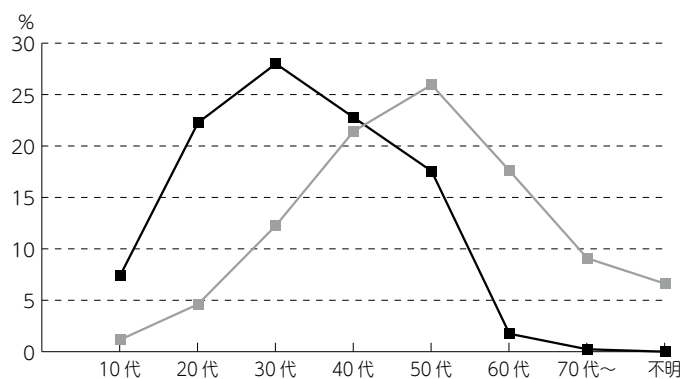


図8 2023年電話相談とネット相談の世代別比較



年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~	不明
電話%	1.1	3.9	11.3	20.5	27.5	19	9.3	7.3
ネット%	6.3	19.5	24.8	22.1	23.5	3.2	0.7	0

2023 年度 決算報告

2023 年度収支決算書 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

単位：円

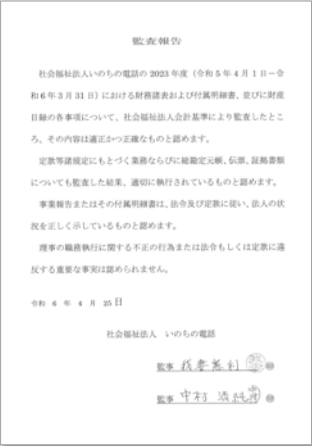
収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助（団体）	9,175,625	施設管理費	6,870,487
賛助（個人）	9,244,093	相談員研修費・ボランティア厚生費	8,178,317
後援会チャリティ寄付	1,000,000	連盟連帯費	1,032,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	2,077,788
東京都自殺防止対策事業補助金	6,187,000	広報印刷費・調査研究費	839,845
共同募金分配金	300,000	システム運用費	950,545
研修受講料	2,127,500	事務費・人件費	11,475,886
雑収入	611,760	事務用消耗品費	2,052,483
受取利息	2,480	什器備品費	61,420
減価償却資金積立金取崩	900,000	減価償却費	1,045,950
相談事業積立金取崩	3,211,263		
収入 総 合 計	34,584,721	支出 総 合 計	34,584,721

* 当期活動収支差額は △ 3,211,263 円です。

2023 年度貸借対照表 (2024 年 3 月 31 日現在)

単位：円

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金預金	3,636,294	未払金	169,487
未収入金	6,187,000	預り金（公租公課・他）	92,599
積立金資産	88,698,862	基本金	100,000,000
基本財産特定預金	100,000,000	その他積立金	88,698,862
ソフトウェア	801,360	正味財産増減差額	15,648,049
建物構築物	2,091,943		
電話権利	1,355,020		
差入保証金	1,838,518		
合 計	204,608,997	合 計	204,608,997



2024 年度 予算書

2024 年度収支予算書 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助（団体）	11,000,000	施設管理費	6,026,760
賛助（個人）	9,000,000	相談員研修・ボランティア厚生費	5,532,000
後援会チャリティ寄付	1,000,000	連盟連帯費	1,140,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	2,203,000
東京都自殺防止対策事業補助金	5,000,000	広報費・調査研究費	858,000
共同募金分配金	300,000	システム運用費	1,258,000
研修受講料	2,275,000	事務費・人件費等	12,104,190
雑収入	520,000	事務用消耗品費	2,053,000
受取利息	900	什器備品費	300,000
減価償却資金積立金取崩	801,360	減価償却費	947,310
相談事業積立金取崩	700,000		
収入 総 合 計	32,422,260	支出 総 合 計	32,422,260

2024（令和 6）年度 事業計画

社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、組織が直面する諸課題に対処し、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。

1. 相談事業の安定的な実施

(1) 電話相談

年中・24 時間休みなく活動する電話相談の体制を維持し、活動を継続する。

(2) インターネット相談

インターネットによるメール相談活動を継続する。

(3) 土曜医療相談

協力医師による毎週土曜日の電話医療相談活動を継続する。

2. 相談体制の充実と強化

いのちの電話の理念に基づいた相談活動を継続するべく、相談体制の充実・強化を図るとともに、社会の変化への対応を進める。

(1) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図る。

(2) 相談員のモチベーションを維持し、支えるために、相談活動の成果を的確にフィードバックするとともに、相談実態に即した研修メニューを継続研修へ提供するなどの支援を推進する。

(3) 募集要項の周知の強化、応募 動機への訴求拡大などによって、相談員応募の拡充を目指す。

(4) 認定後の研修について、継続研修を基本として、全体研修、フォローアップ研修、個人スーパービジョンと連携を図りつつ実施し、サポート体制の強化につなげる。

(5) 社会の変化に対応するため、調査研究を進め、対応策の検討に取り組む。

3. 活動への支援拡大に向けての取り組み

いのちの電話が、広く理解され、支援を得るために、積極的な広報活動に取り組む。

(1) 後援会主催行事等の実施へ協力するとともに、クレジット寄付や遺贈等、活動への支援方法を多様化し、財政を健全化する。

(2) 積極的な広報活動を展開するとともに、公益的な活動に関心のある企業・団体に対して支援を働きかける。

4. 社会に対する相談技法等の提供

培ってきた危機介入や気持ちに関わる考え方・技法を地域に提供し、社会との連携を深める。

(1) 地方公共団体、企業、学校 などにおいて、相談の技法等を体験・学習するプログラムを実施する。

(2) 危機介入や気持ちに関わる援助について、社会に広く紹介し、理解を広げる機会を拡充する。

5. 社会・外部組織との関係の強化

(1) 各種の支援活動、支援団体等との関係を充実し、活動の連携、活動基盤の強化、社会的認知の向上などを図る。

(2) 日本いのちの電話連盟や他のセンター等との協力関係を深める。

・ 厚生労働省補助事業自殺防止対策事業及び内閣官房 孤独・孤立相談ダイヤル等に参加する。

・ 他センターと協力してインターネット相談事業の拡充を図る。

社会福祉法人 いのちの電話役員等名簿..... 2024年6月5日現在

任期 2023年6月8日～2025年定時評議員会終結時まで 任期 2021年5月18日～2025年定時評議員会終結時まで

理 事	職業又は所属	評議員	職業又は所属
末松 渉	(社福) いのちの電話 理事長、末松T Aコミュニティ研究所 所長、臨床心理士	岩田 淳子	成蹊大学文学部教授
井村 華子	弁護士	神田 佳和	(社福) いのちの電話 ボランティア
植村 みどり	(社福) いのちの電話 ボランティア	菊地 俊暁	慶応義塾大学医学部
大西 連	認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長	北川 逸英	日本ルーテル教会牧師
岡村 五十男	(社福) いのちの電話 後援会会長	清水 和良	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
小澤 康司	立正大学心理学部教授	杉山 恵子	(社福) いのちの電話 ボランティア
久保 美紀	明治学院大学社会学部教授	高瀬 幸子	産婦人科医師 (順天堂大学) 東京女子大学非常勤講師 医療 相談員
栗原 郁男	(社福) いのちの電話 ボランティア	谷口 尋子	(社福) 埼玉いのちの電話理事
小柳 樹弘	(社福) いのちの電話 ボランティア	野田 芳朗	(社福) いのちの電話後援会理事
逸見 敏郎	立教大学文学部教授 研修委員長	樋田大二郎	青山学院大学教育人間科学部教授
和田 恵美子	医師・日本カトリック医師会会長	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
計 11 名		藤原 佐世美	(社福) いのちの電話 ボランティア
		山崎 隆	(社福) いのちの電話 ボランティア
		計 13 名	

監 事	職業又は所属
中村 清純	水町保険診療所医師
我妻 憲利	税理士
計 2 名	

苦情処理第三者委員	岩田 淳子 (大学教授) 中村 清純 (医師)
-----------	-------------------------

50 音順 (理事長以外) 敬称略

後援会役員..... 2024年6月20日総会日

任期 2024年6月から2026年6月後援会総会日まで

会 長	岡村五十男
常任理事 6 名	大瀧加容子 神田佳和 木川道子 郡山直 三崎由美子 渡邊富子
理 事 8 名	浅見正博 今村郁子 植村みどり 岡内泰子 各務啓子 徳川信子 野田芳朗 野呂雅彦
監 事 1 名	冨部直希
顧 問 2 名	高村治子 中村武照

～撮影紀行 (河口湖桑崎)～ 岡田弘志 (表紙写真の撮影者)



2024年節分 熊野神社神楽殿より豆をまく岡田さん

《作者紹介》

岡田弘志さんは 20 歳代から登山を始めて、登山の記録として写真を撮りはじめました。お子さまの成長後に、奥さまや友人たちと日本の百名山を目標に登山を続け、見事制覇もしました。山の雄大さや四季の様々な景色に感動して撮影した写真を、他の人にも見てもらいたくなり応募した作品「寒い朝」が、東京読売写真クラブ作品審査会の自由部門で優秀賞を受賞しました。

みどり写真クラブは、板橋区立グリーンカレッジホールで開催されたデジカメ講座受講修了者有志 10 数名で 2012 年 2 月に発足した写真クラブです。季節に応じた風景・動植物・人物等ジャンルは問わずクラブ員個々の得意な写真を撮っています。今回「いのちの電話」について知り、活動内容に感銘を受けました。今後は微力ながら応援していきたいと思っています。

みどり写真クラブ代表 根本 健作

後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるため、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティーバザー、映画会、コンサート等）の実施、センター内での相談員の便宜を図るため関連図書、古本販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集、ポートレートや花のカード等の販売を行っています。

■ 2023 年度チャリティー事業報告

● 7 月 22 日（土）上映会「おかあさんの被爆ピアノ」& トークイベント（於：東京ウィメンズプラザホール）

いまでも世界のなかでは戦争が続いている地域があります。唯一の被爆国として平和の大切さを考える機会になりましたとのご意見をいただきました。

● 11 月 18 日（土）チャリティーバザー（於：センター 300A,C 室）

いつもご支援頂いている企業や相談員等の個人の方からの献品により、いのちの電話のボランティア、OB、OG とその家族の参加で開催。予想以上の収益をあげることができました。

物品販売にご支援して頂いた企業の方々

- ・エイワ株式会社・ジャパンローヤルゼリー株式会社
- ・玉の肌石鹸株式会社・ミヨシ石鹸株式会社
- ・ローズ産業株式会社 等

■ 2024 年度チャリティー事業計画

● 上映会「風をつかまえた少年」

2024 年 9 月 21 日（土）14：00～

会場：東京ウィメンズプラザホール

図書館で出会った一冊の本を元に未来を切り開いた 14 歳の少年の奇跡の実話。

目が不自由な方のための副音声イヤホンガイド付き上映。

● チャリティーバザー

2024 年 11 月 16 日（土）10：00～ 会場：ルーテル教会会議室

いのちの電話のボランティア、OB、OG とその家族の参加で開催。

■ 2023 年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ 100 万円寄付

ご支援をお願いします

いのちの電話は相談員の無償の奉仕で支えられておりますが、24 時間 365 日電話相談を受け付けるには、運営費（研修費・広報費・事務費・借室料）が年間約 4,000 万円必要です。その運営費の大部分が、皆さまからのご寄付に支えられています。ご支援をよろしくお願いいたします。ご寄付の振込先に、みずほ銀行とクレジット寄付を加えました。

なお、ご寄附には税制上の優遇措置があります。

ご寄付振込先

<郵便振替>

● 00140-3-162972
社会福祉法人 いのちの電話

<クレジット寄付>



<銀行振込>

● 三菱 UFJ 銀行 神保町支店
普通口座 1084827
社会福祉法人いのちの電話

● みずほ銀行 飯田橋支店
普通口座 0543576
社会福祉法人いのちの電話

相談員を募集しています

こころとこころをつなぐ「聴く」を一緒に活動しましょう。

困難や危機にあって、誰ひとり相談する人もなく、自殺などさまざまな精神危機に追い込まれる人たちが、再び生きる喜びを見つけ出すことを願いつつ良き隣人として活動をしています。

いのちの電話の相談員になっていただくには、養成研修受講者応募の手続きを経て、一定期間の研修を終了して認定を受けることが必要です。活動趣旨に賛同し、電話相談活動に参加できる無償ボランティアを募集しています。

募集期間：2025 年 2 月 1 日～ 4 月 30 日（予定）

※詳しくは下記へ問い合わせいただくかホームページでご確認ください。

☎ 03-3263-5794（平日 11：00～17：00）



社会福祉法人

いのちの電話（東京）

■ 電話相談 [24 時間受付中]

03-3264-4343

■ 自殺予防 [フリーダイヤル]

0120-783-556

（毎日 16：00～21：00、毎月 10 日は 8：00 から翌日 11 日 8：00 まで、通話料は無料です）

■ インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp/>

■ 東京いのちの電話ホームページ

<https://www.indt.jp/>

東京いのちの電話

検索



【発行日】2024 年 6 月 【発行人】末松 渉 【事務局】〒102-0071 飯田橋郵便局留

【TEL】03-3263-5794（代）【FAX】03-3264-4949【HP】<https://www.indt.jp/>【印刷】株式会社ユニックス